

令和 7（2025）年度学修成果の達成状況等調査結果

I. 調査時期、対象者数

1. 調査時期：令和 8 年 1 月下旬～2 月上旬
2. 対 象 者：令和 7 年度在学生（休学者を除く令和 8 年 2 月時点での在籍者）

表中の略称について
NS：看護学科
CW：医療介護福祉学科

対象者及び回答数

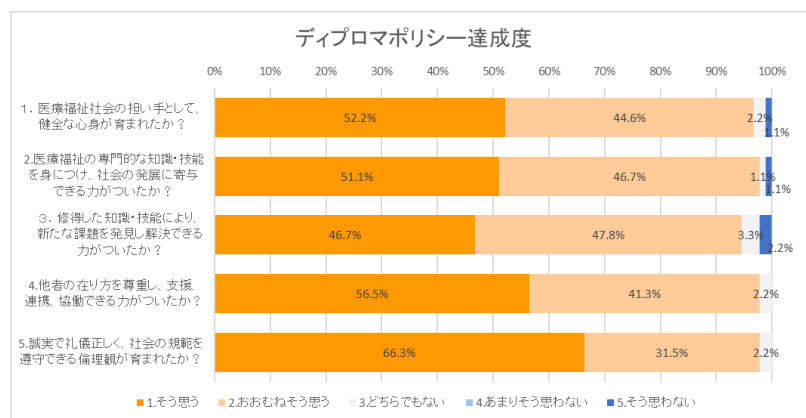
	看護学科				医療介護福祉学科				合計 (内卒業予定者)
	1 年 次生	2 年 次生	3 年次生 (内卒業予定者)	学科計	1 年 次生	2 年 次生	3 年次生 (内卒業予定者)	学科計	
対象者数： 人	79	85	92 (84)	256	4	7	10 (10)	21	277 (94)
回答者数： 人	74	78	82 (81)	234	3	7	10 (10)	20	254 (91)
回答率： %	94	92	89 (96)	91	75	100	100 (100)	95	92 (97)

II. アンケート結果及び分析

1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び学修成果の達成度

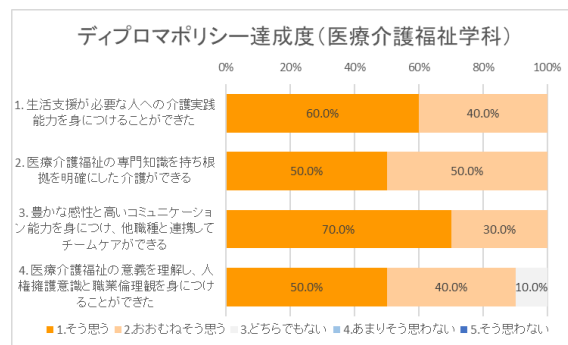
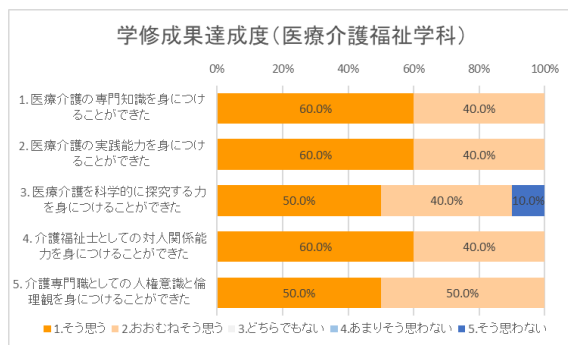
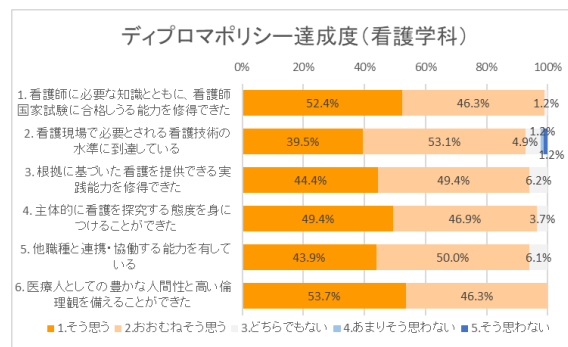
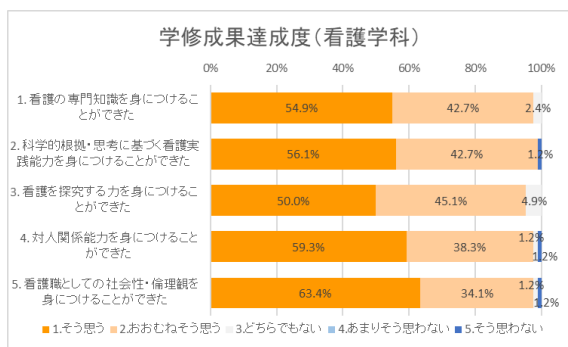
1) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）達成度（3 年次生のみ）

令和 7（2025）年度のディプロマ・ポリシーの達成度は、大学が掲げる 5 つの方針に関して「[そう思う]」「[おおむねそう思う]」と答えた学生は 94%を超えており、例年と変わらず高い結果であった。



2) 学科の学修成果及び学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）達成度（3 年次のみ）

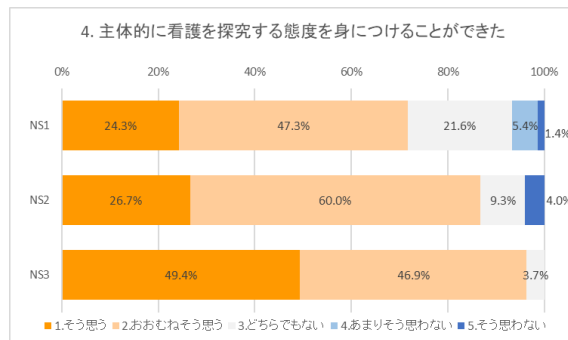
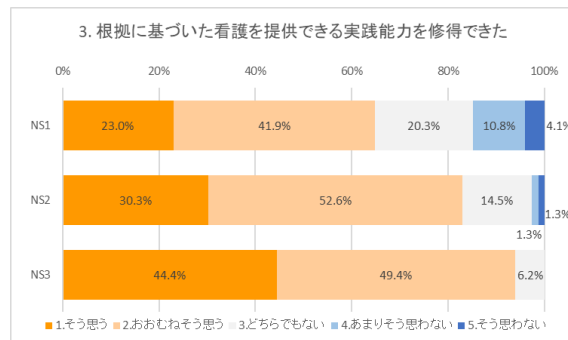
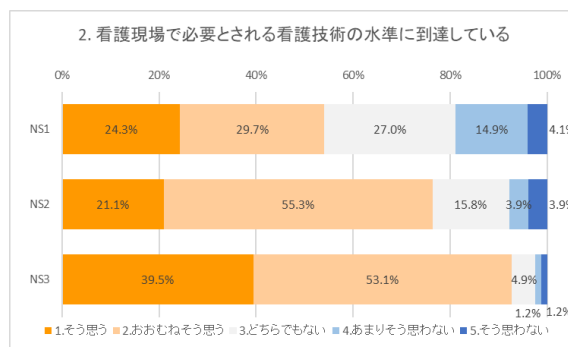
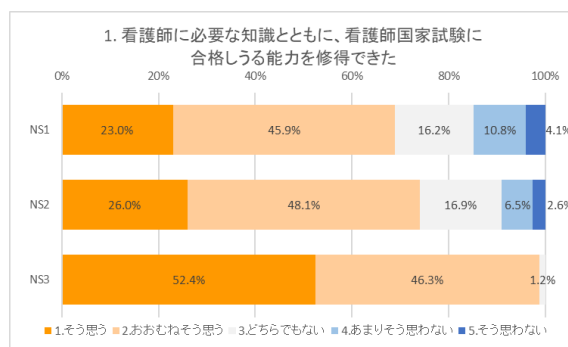
各学科の学修成果及びディプロマ・ポリシーの達成度ともに、「[そう思う]」「[おおむねそう思う]」と答えた学生は 9 割を超えていた。3 年間の学修を通じて学科の学修成果やディプロマ・ポリシーはおおむね達成されていると考えられた。

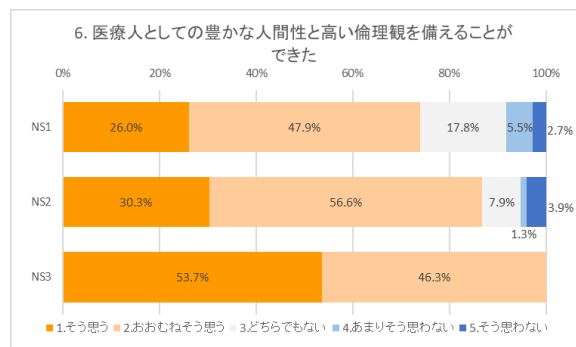
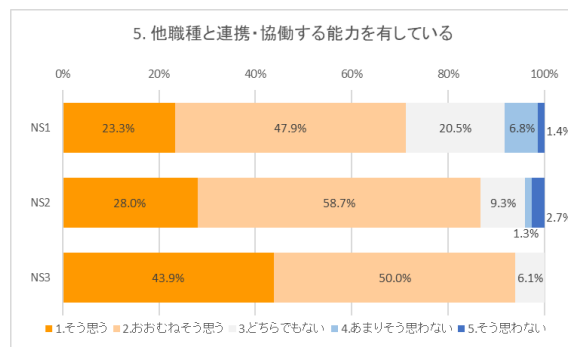


3) 学科別・各学年の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー) 達成度

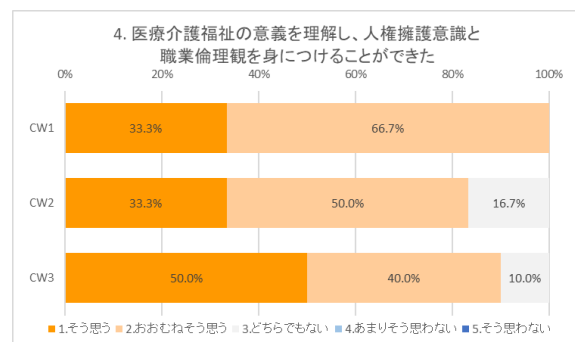
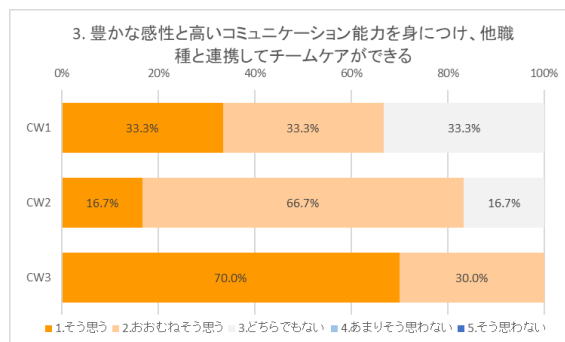
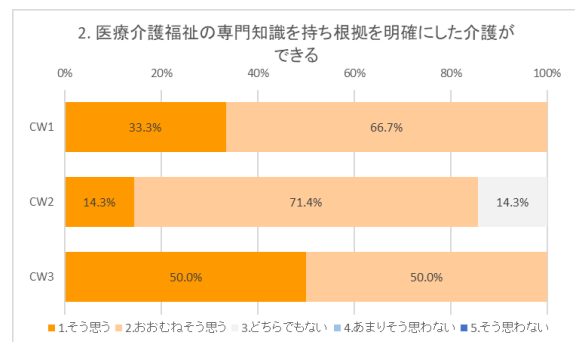
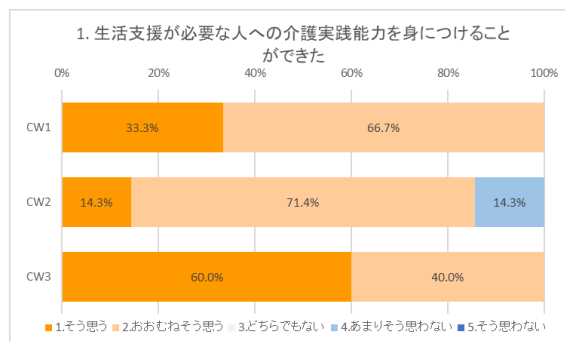
本調査は、学年別の横断的評価で同一学生の追跡ではないが、看護学科では全項目で「そう思う」「おおむねそう思う」と答えた学生の割合が、学年の進行に伴い増加していた。一方、医療介護福祉学科では、4項目中3項目で2年次に一時的な低下がみられたが、3年次には改善傾向がみられた。同学科は学生数が少なく数値変動の影響が大きいため、結果は傾向と捉える必要がある。介護実践能力の修得や根拠に基づく介護の学修など、今後は学修内容の難易度や実習時期を踏まえ、学年に応じた指導や学修支援の重点化を検討していく。

(1) 看護学科





(2) 医療介護福祉学科



2. 学年別にみた各学科のカリキュラム及び教育体制・支援

1) 学科・学年別の評価

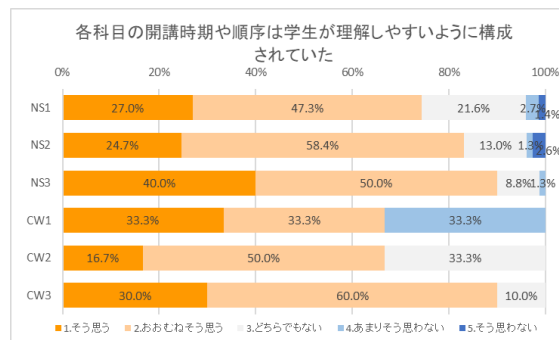
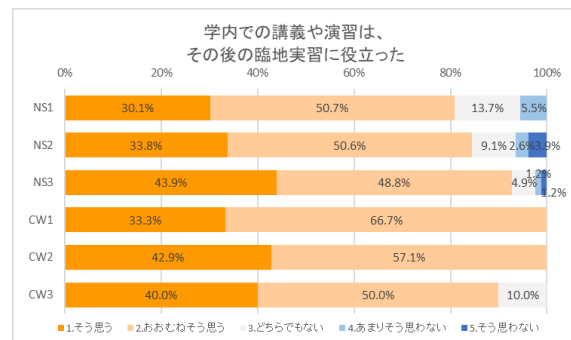
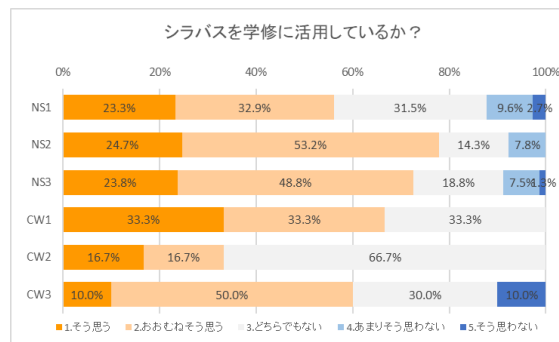
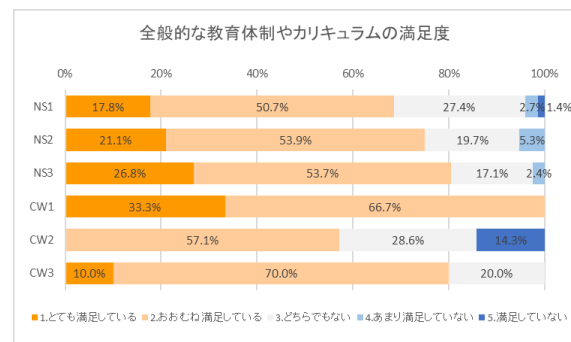
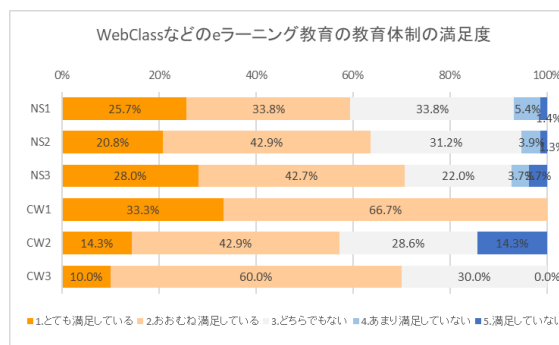
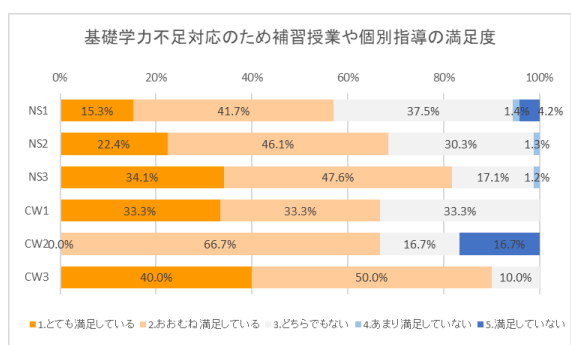
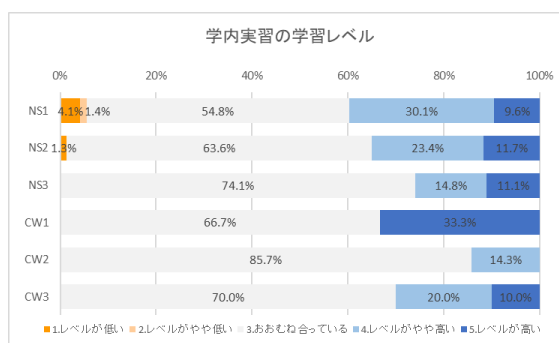
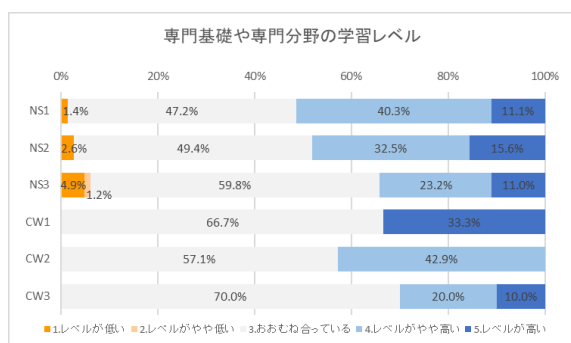
専門基礎・専門分野の学修レベルについて、学修の難易度〔レベルが高い〕〔レベルがやや高い〕と答えた学生は、いずれの学科・学年でも3～5割で、昨年度より増加していた。これらの結果は、あくまで学生が授業内容をどの程度難しく感じたかという主観的な難易度評価を示すものである。この背景には、入学者層の変化に伴う基礎学力の二極化が影響している可能性があり、基礎学力が十分でない学生にとっては、専門基礎・専門分野の内容が相対的に難しいと評価したと考える。学内実習は両学科とも1年次生が高いと評価していた。1年次は初めて取り組む技術が多いことから、学修難易度を高く感じる学生が多いと考えられた。

教育体制の満足度では、看護学科は補習授業や個別指導、eラーニング、カリキュラム全般の評価が、学年進行とともに上昇する傾向がみられた。一方、医療介護福祉学科では、2

年次生のみeラーニング教育、教育体制・カリキュラムの満足度が低かった。

シラバスの学修への活用は例年低い傾向にあったが、本年度は医療介護福祉学科2年次を除き、5～8割未満に増加した。また、学内講義・演習の臨地実習への役立ち度は、看護学科で8割以上、医療介護福祉学科で9割以上と高く、座学が臨床での学修に結びついていることが示唆された。

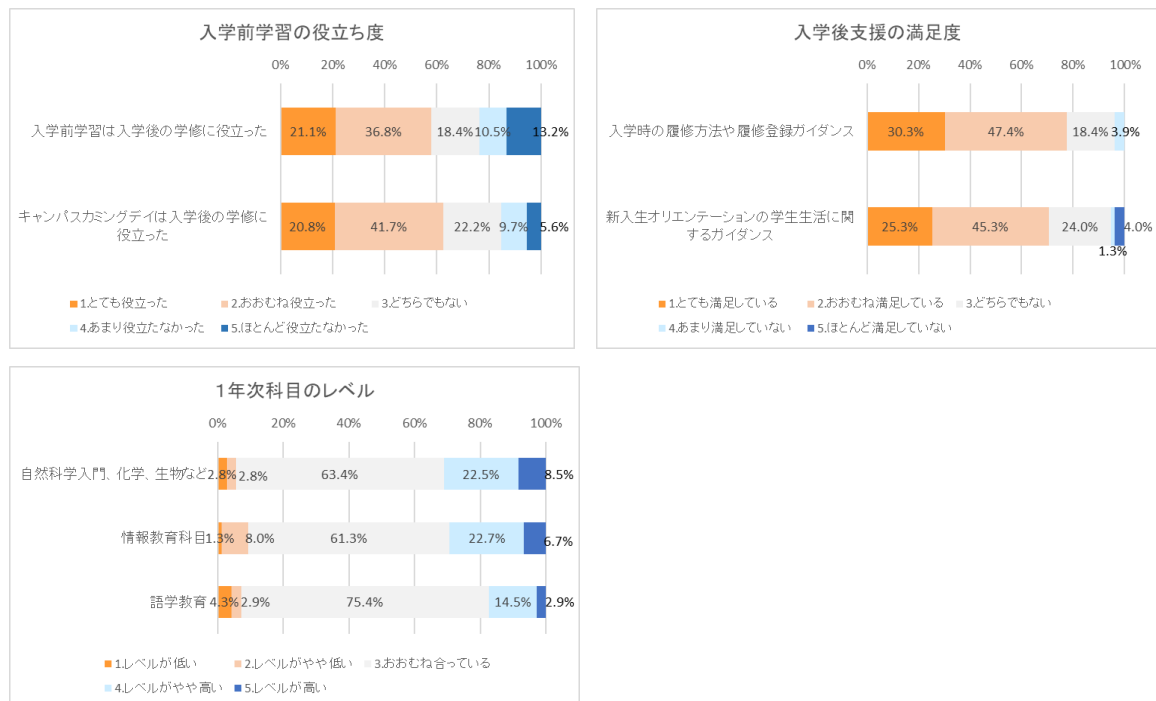
新カリキュラムの運用に関しては、科目の開講時期・順序が理解しやすい構成であったかを問う設問では、両学科とも3年次生の「そう思う」「おおむねそう思う」が9割以上と最も多かった。3年次生は3年間を通じて科目の流れや学修内容の関連性を把握しているため、カリキュラム全体を理解しやすいと評価したと考えられた。



2) 入学前及び入学後の教育支援（1年次生のみ）

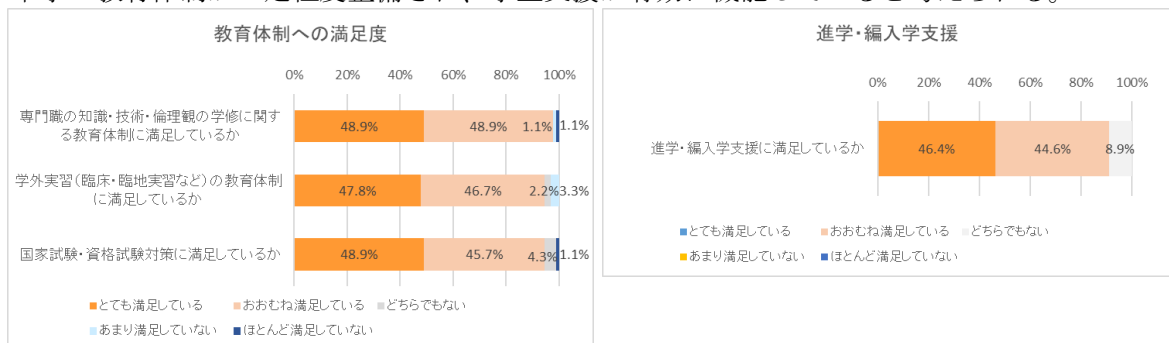
本学では、入試合格者に対して入学前からの学習支援として入学前学習、キャンパスカミングデイを実施している。入学前学習について「とても役立つ」「おおむね役立つ」と答えた学生は昨年度5割弱から1割増加、キャンパスカミングデイは昨年度とほぼ同じ6割であった。いずれの取組も開催直後の評価は高いが、調査は1年以上経過後に実施しており、キャンパスカミングデイ未参加者も含まれることから、調査方法や時期の見直しが必要である。入学後の履修ガイダンスの満足度は8割弱で例年並みであった。

基礎分野の6科目の学修レベルについて「レベルが高い」「レベルがやや高い」と答えた学生は、両学科共通の語学教育科目「文章表現」「英語」より、「自然科学入門」「化学」「生物」など理数系科目と情報教育科目の方が約1割多かった。基礎分野の他の科目は調査対象にしていないものの理数系科目を苦手とする学生が一定数存在することから、学修難易度の適正化や学修力向上に向けた支援策の検討が求められる。



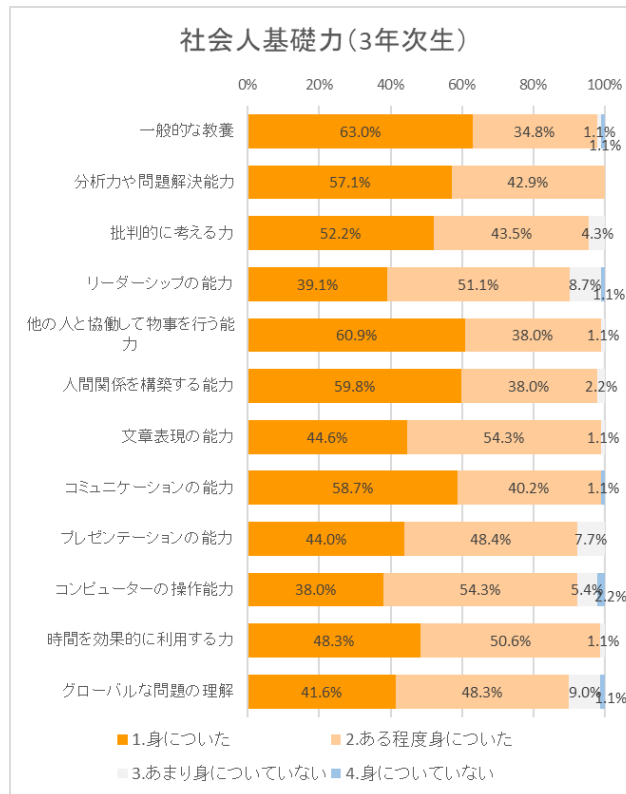
3) 教育体制（3年次生のみ）

本学における専門職の学修に関する教育体制、学外実習の体制、国家試験・資格支援対策、進学支援に関して、教育体制及び学修支援全般への満足度を尋ねたところ、9割以上が「とても満足している」「おおむね満足している」と回答していた。これらの高い満足度から、本学の教育体制が一定程度整備され、学生支援が有効に機能していると考えられる。



3. 社会人基礎力（3年次生のみ）

3年次生を対象に、社会人基礎力の修得状況を12項目で自己評価したところ、〔身についた〕〔ある程度身についた〕と回答した割合は、ほとんどが9割以上であった。中でも「分析力や問題解決能力」は100%と最も多く、続く6項目「一般的な教養」「他の人と協働して物事を行う能力」「人間関係を構築する能力」「文章表現の能力」「コミュニケーションの能力」「時間を効果的に利用する力」も高い肯定率を示した。



4. 学習時間調査

平均的な1日の学習時間では、最も短い「1時間未満」が多かったのは両学科の1年次生であった。一方、「4時間以上」は看護学科3年次生が最多で、国家試験受験を前の自主学習の影響と考えられる。

学期末試験前の学習開始時期は、看護学科1年次生と2年次生で「1か月前」の回答が多く、他学年では「1週間前から」が多かった。試験前・試験中の平均的な学習時間でも、看護学科1・2年次生が「4時間以上」と多く、科目数の多さから早期に学習に取り組む必要があり、そのことが学習時間の長さにも影響したと考えられる。

学習意欲への影響要因（複数回答）では、昨年度と同様に、学習意欲向上要因は「成績の向上」「仲間との協同」の順に多く、阻害要因では圧倒的に多かったのは「SNSなどのスマートフォン」で、次いで「遊びや趣味」「アルバイト」の順であった。この結果から、学修成果の実感や協働学習が意欲を高める一方、スマートフォンへの依存的行動や余暇活動の増加が学習意欲低下に影響を及ぼしていた。

